

## クイック・スタート・ガイド

この資料は、始めに DataPower Virtual Edition を理解するのに役立ちます。

### 製品の概要

DataPower® Virtual Edition をデプロイするイメージは、IBM® により提供される自己完結型仮想マシン・イメージで、仮想アプライアンス・ソフトウェアを含みます。非実動エディションは、テストおよび開発専用です。

### 1 ステップ 1: ソフトウェアへのアクセス



IBM パスポート・アドバンテージからパッケージをダウンロードすると、以下のコンポーネントが含まれています。

- DataPower 仮想アプライアンスにデプロイするイメージ
- IBM WebSphere® DataPower Virtual Edition のリソース・キット
- この PDF 文書

### 2 ステップ 2: ハードウェアおよびシステム構成の評価



VMware ハイパーバイザーを実行するマシンは、特定のハードウェア要件を満たしている必要があります。VMware ハイパーバイザーは、さまざまな環境で仮想アプライアンスをホストするためのリソース要件を満たしている必要があります。

スタンドアロン・ハイパーバイザー上にデプロイするには、以下のいずれかのバージョンの VMware バージョンが必要です。

- VMware ESX または ESXi バージョン 4.0 Update 2 またはバージョン 4.1
- VMware vSphere バージョン 5.0 またはバージョン 5.1 エディション: Standard、Enterprise、または Enterprise Plus

管理対象クラウド内のハイパーバイザー上にデプロイするには、以下のクラウド管理プラットフォームのいずれかが必要です。

- IBM PureApplication™ System W1500 バージョン 1.1
- IBM Workload Deployer バージョン 3.1 (VMware ESX または ESXi をサポートする x86 ハードウェア搭載)。デプロイメントには APAR IC92350 が必要です。

ハイパーバイザーを実行するマシンは、以下のハードウェア要件を満たしている必要があります。

- 64 ビット x86 CPU
- プロセッサ (ロング・モードの LAHF/SAHF 対応)
- 2.0 GHz 以上のコア速度
- 64 ビットのゲストをサポートする以下のいずれかのプロセッサ:
  - AMD CPU (ロング・モードのセグメント制限に対応)
  - Intel CPU、VT-x 対応 (BIOS サポートを含む)

DataPower 仮想アプライアンスをデプロイする場合、ゲスト仮想マシンには最小 4 つの仮想 CPU および 4 GB の RAM が必要です。VMware ESX および ESXi 4.0 が仮想アプライアンスに割り振る CPU の最大数は 8 です。

ハイパーバイザーは、DataPower 仮想アプライアンスをホストするための最小ディスク・スペース要件を満たしている必要があります。

- スタンドアロン・ハイパーバイザーにデプロイするには、以下の最小ディスク・スペースが必要です。
  - シック・ディスク・フォーマットの場合は 32 GB。
  - シン・ディスク・フォーマットの場合は 258.6 MB。アプライアンスにデータを書き込む際に、追加のディスク・スペースが必要です。
- IBM PureApplication System または IBM Workload Deployer 内のハイパーバイザーにデプロイするには、32 GB のディスク・スペースが必要です。

### 3 ステップ 3: DataPower 仮想環境のデプロイ



仮想環境をデプロイするための適切な OVA ファイルを使用します。IBM は、エディションごとに 1 つの OVA ファイルを提供します。OVA ファイルは以下の形式です。 *product* はモデル: xg または xi:

- 実働エディション: *product6000.vmware.ova*
- 非実働エディション: *product6000.vmware\_nonpd.ova*

スタンドアロン・ハイパーバイザーへのデプロイ:

1. VMware vSphere Client で、ハイパーバイザー上に DataPower 仮想アプライアンス を作成するために OVA イメージをデプロイします。
2. 仮想アプライアンスの電源をオンにします。
3. 仮想アプライアンスの CPU、メモリー、および RAID を構成します。
4. VMware vSphere Client のコンソールを使用して、仮想アプライアンスを初期化します。

IBM PureApplication System または IBM Workload Deployer へのデプロイ:

1. カタログに OVA イメージをインポートします。
2. デプロイメント・トポロジーの一部として、DataPower 仮想アプライアンスを含む仮想システム・パターンを作成します。
3. 仮想システム・パターンをデプロイします。

### 4 ステップ 4: 始めに



仮想アプライアンスがスタンドアロン・ハイパーバイザー上にある場合は、以下の手順を実行してください。

1. Web 管理サービスを初期化するとき定義した URL を使用して、WebGUI にアクセスします。初期化中、システム ID を定義します。
2. ご使用条件に同意します。

仮想アプライアンスが IBM PureApplication System または IBM Workload Deployer によって管理されている場合は、 [https://ip\\_address:port](https://ip_address:port) で WebGUI にアクセスします。

- IP アドレスは、IBM PureApplication System または IBM Workload Deployer により自動的に割り当てられます。仮想マシンの詳細を展開し、「ハードウェアおよびネットワーク」セクションを表示すると、IP アドレスが見つかります。
  - IBM PureApplication System では、IP アドレスはネットワーク・インターフェース 1 用になります。
  - IBM Workload Deployer では、IP アドレスはネットワーク・インターフェース 0 用になります。
- ポートの定義は、パターン・プロパティを編集する時、またはパターンをデプロイして事前定義プロパティを編集する時に行います。

### 5 ステップ 5: オプション・フィーチャーの管理



実働エディションの場合は、IBM パスポート・アドバンテージでオプション・フィーチャーを購入します。フィーチャーを購入すると、アクティベーション・ツールを含むパッケージを受け取ります。

非実働エディションの場合は、無効化ツールを使用して、不要なオプション・フィーチャーを無効にします。このツールは、IBM Fix Central から無償で入手することができます。

### 詳細情報



詳細情報については、DataPower Service Gateway (XG) または DataPower Integration Appliance (XI) インフォメーション・センターを参照してください。

- XG: <http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wsdatap/v6r0m0/topic/com.ibm.dp.xg.doc/welcome.html>
- XI: <http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wsdatap/v6r0m0/topic/com.ibm.dp.xi.doc/welcome.html>

